

平成28年度第2回 高松市立病院を良くする会 会議録

開催日時：平成28年11月2日（水）13：00～15：00

場 所：高松市民病院 西会議室

【出席者】

(副会長) 神内 仁 (一般社団法人高松市医師会 会長)
(委員) 中村 明美 (公益社団法人香川県看護協会 会長)
二島 多恵 (公募委員 香川がん患者おしゃべり会 代表)
藤田 徳子 (株式会社フェアリー・テイル 代表取締役)
横見瀬 裕保 (国立大学法人香川大学医学部附属病院 病院長)
和田 頼知 (有限責任監査法人トーマツ 公認会計士)
(事務局) 市職員29名

開会 13：00～

1 高松市病院事業経営健全化計画(平成27年度実績)に係る総括評価について

総括評価及び総括意見等について確認したところ、いずれも原案のとおりとなった。また、本日欠席となった会長からは、事前に「高松市内の主要な急性期病院が改築する中、老朽化した高松市民病院のみが取り残され、患者の流れが細ってしまったのが収支悪化の原因であり、重要なのは、その課題に対して、医師不足ではあるものの、今市民病院にある経験豊富な人材をもって何ができるのか、再考することである。救急医療やがん医療等、従来の枠組みや発想にとらわれずに、ゼロベースで市民病院のあり方を確認し模索してほしい」との意見をいただいております、会において報告があった。なお、主な議論は下記のとおり。

(委員)

市民病院の経営危機を乗り越えるには、多くの救急患者を受入れる必要があるものの、受入件数及び受入不可率に係る自己評価は△であり、十分とは言えない状況である。

また、「医療の効率性の確保」のうち、「市立病院間の診療面の連携・協調」について、市民病院が「△」であるのに対し、塩江分院と香川診療所は「◎」となっているが、同じ評価になるのではないのか。

(病院事業管理者)

それぞれの病院内の連携も踏まえた評価となっており、市民病院はそれが十分ではなかったためである。

(委員)

市民病院は、改築を目前にしている中で内科医が不足しているが、他の公立病院でも類似の話を聞いたことがある。

患者減の要因は内科医が不足し、十分な専門医療ができていない点である。特に循環器内科医は必要であり、その確保は必須である。医師が不足すると当直体制が組めず、救急患者を取れなくなり、

無理をしようとするすると医師が疲弊する。具体的に市民病院は、常勤の内科医を確保することが課題であり、今後、さらに減るとも聞いているが、その補充はできるのか。

病院が新しくなれば医師も患者も集まるかもしれないが、まだ2年も先である。それまで今の病院で何とか経営しなければならないが、経営を改善するためには内科医不足の解消が必須であり、それ以外の問題を議論してもどうにもならないのではないか。高松市域における高松市民病院の役割の大きさと重要性を考えた場合、香川大学としても、医師確保について応援したいと考えているので、ぜひ御相談いただきたい。

(病院事業管理者)

これまでの医師確保のあり方も踏まえ、難しい面も多々あるが、改めて検討してみたいと思う。

(委員)

市民病院は急性期病院であることから、慢性期などよりも、さらに確保は重要な課題である。そのような中でも、看護師としてできることはあるはずであり、他病院へ出向し、技能向上を図るのも一つの方法と思われる。

(市民病院看護局長)

研修が長期間にわたるものは研修生以外の現場職員の負担が増え、また、研修で得た知識を活用する具体的な場面がないと研修を受けづらいという事情がある。市民病院では病院機能の強化を図るため、認定看護師の育成に努めているが、他病院への出向については現在取り組んでいないものの、個々の技能向上を図る上で有益であると思われることから、検討してまいりたい。

(市民病院院長)

市民病院においては、確かに内科医が不足していることにより、入院患者を確保できていない面もある。ただ、全体の医師数は病院規模からして決して少なくはなく、各診療科の医師数の偏在が課題であることから、引き続き、この解消に努めたい。

(委員)

市民病院の女性医師確保に向けた勤務環境の整備に係る自己評価は◎であるが、具体的に、どのような取組をしているのか。

(市民病院院長)

産後の女性医師が無理なく勤務できるよう、勤務時間の短い雇用契約を結ぶものである。現在2名の女性医師が利用しており、医師確保の一翼を担っている。

(委員)

市民病院におけるDMA T整備に向けた取組みの自己評価は△であり、これについては全く進んでいないように見受けられるのだがどうか。

(市民病院事務局長)

DMA Tについては、県が主催する研修を受け、認定を受けなければならないが、県は新病院開院

後を想定していたことから、平成 30 年前半の新病院開院を見据え、来年度には研修を受ける予定で県と調整しており、今後は具体的に進んでいくものと考えている。

(委員)

市民病院におけるチーム医療の実践について、自己評価が×となっている項目があるが、どのような状況か。

(病院事業管理者)

医師や看護師など様々な職種によりチームを編成し、医療安全、院内感染予防などに取り組んでいるが、計画において、具体的な取組項目として掲げているにもかかわらず、活動ができていなかったチームがあることから、自己評価が×となっている。ただ、いずれも最近活動を始めたところである。

今後とも多職種が連携したチーム医療に、より一層取り組み、医療の質の向上に取り組んでいきたい。

(委員)

塩江分院に係る患者満足度調査の自己評価は◎であるが、調査結果をどのように活かしているのか。

(塩江分院院長)

患者満足度調査の結果については、毎月開催している経営戦略会議等を通じて、現場にフィードバックすることにより、業務改善に努めている。

2 市立病院における医療の質の向上について

市民病院事務局長 説明

(委員)

これまで様々な取組をしていることは理解できる。ただ、医療の質が上がれば患者は増えるはずだが、逆に減少している。内科医不足により救急患者をとりづらいのも大きな要因だろうが、それだけでこれほど減少するのか。

他病院では、医師が患者に対し十分な説明を行わなかったため、訴訟になりかけたという話を聞いたことがある。看護師は、医師の説明が十分でないと感じていたが、医師と看護師の間には壁のようなものがあり、助言できなかつたらしい。自らの病院を振り返ってみて、いかがか。チームワークの向上は非常に重要かつ効果的だと思われる。

また、病院としては、これをしたというのも大切だが、患者の視点から考えることが、さらに重要ではないか。患者にとって丁寧な医療とは何か、患者が市民病院は良かったと口コミで広めてくれるようになるには、どのようにすればいいか。その当たりを追求する勉強会などに力を入れる必要があるのではないか。

(市民病院院長)

これまで医療の質の向上に、いろいろ取り組んできたものの、確かに、それらが市民に十分に伝わっ

ていない結果、患者が減少しているものと思われる。今後は、そういった視点からも医療の質の向上の取組を市民にもっとアピールしていきたい。

3 高松市病院事業経営健全化計画の改定について

高松市病院事業経営健全化計画の改定に関し、市民病院経営企画課長より、進捗状況と今後のスケジュールについて説明があった。

閉会 ～15:00